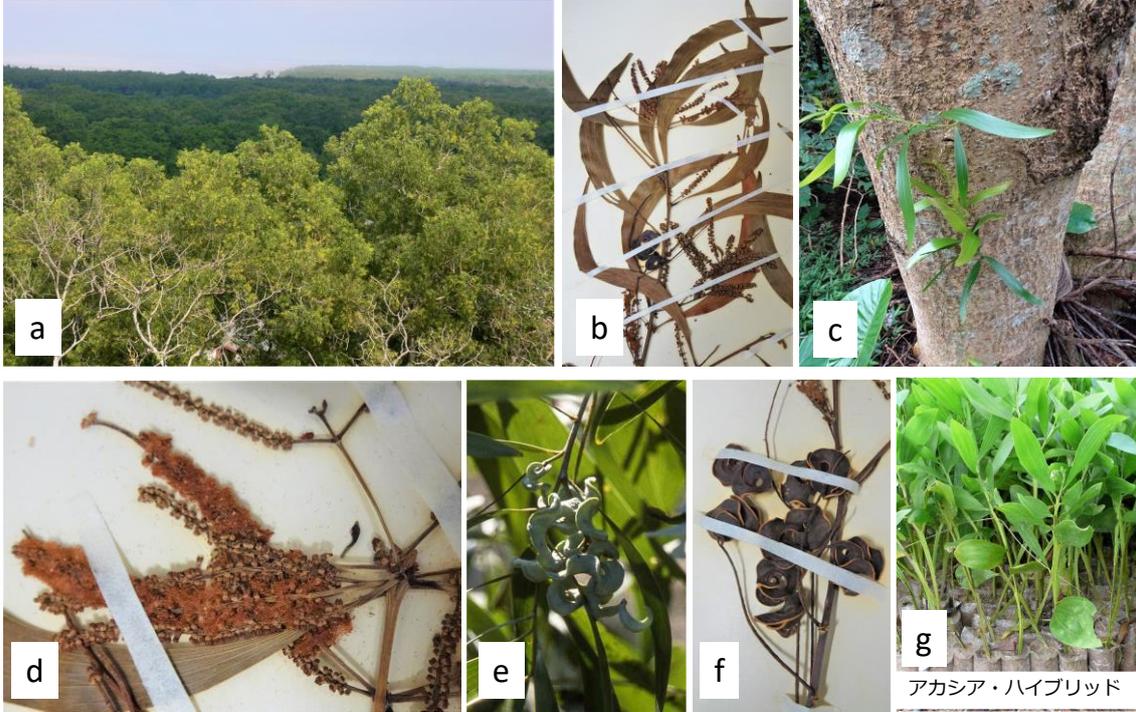


カマバアカシア（マメ科）

Acacia auriculiformis A. Cunn. Ex Benth.

英語：Earpod wattle, Northern black wattle



【概要】カマバアカシアは、オーストラリア大陸北部からニューギニア島南部にかけて天然分布している。分布地域では4カ月から半年の乾期があり、年降水量も760 mm～3000 mmと幅がある。成長が早く、東南アジアを中心に植林されている。様々な土壤条件でも植栽可能で、例えばpH3程度の強酸性土壤からpH9程度の砂丘にも植えることが出来るため、鉱山跡地や沿岸の緑化にも使われる。英名はこの種の成熟したマメのさやの形が耳状に見えることが由来となっている（写真e, f）。和名は仮葉の形が鎌状であることによる（写真b）。

【形態】中高木で樹高は8–25m、直径は50 cmになる（写真a）。マングウムアカシア（*A. mangium*）と同様に、葉に見える部分は植物学的には葉柄が葉状に発達したもの（仮葉）で、形態学的な葉は退化している。仮葉は扁平でマングウムアカシアに比べ幅が狭く、鎌状から直線状の形をしている（写真b）。芽生えたばかりの苗には複葉が見られるが次第に仮葉のみになる（マングウムアカシアの写真を参照）。樹皮はやや白っぽくひび割れる（写真c）。花はクリーム色から黄色で小さな花が房状に集合している（写真d）。種子の入ったさやが若齢のものは棒状であるが、成熟が進むと丸まり耳のような形になる（写真e, f）。

森林再生テクニカルノート：荒廃地修復のための主な植栽樹種

【生態】標高 600m 以下の低地に天然分布する。先駆樹種的な特性を持ち、根の共生菌による窒素固定能力があるため、貧栄養土壌でも生育できる。高温条件には耐えるが 15℃以下の環境では低温障害が起こる。光合成速度はマンギウムアカシアとほぼ同等の値を示し、フタバガキ科樹木などと比べかなり高い。2 年生くらいの個体から開花し、種子が採取できる。開花後 4, 5 カ月で結実し、成熟するとオレンジ色の仮種皮をつけた種子がさやから出てくる。鳥が仮種皮ごと食べ種子が散布される。

【繁殖・育苗】種子は冷蔵で 3 年程度保存が可能である。播種前に温水処理や熱水処理を行うと発芽率が向上する。3-5 カ月育苗し、苗高 30-60 cm で植栽される。挿し木増殖も可能である。

【成長・その他】成長が早く、ベトナムではヘクタール当たりの年材積成長量が 30m³ に達しているとの報告がある。材の気乾比重は 0.5-0.6 と緻密である。材は薪炭利用のほか用材や家具などに利用され、パルプ原料にもなる。タイでは若い葉を食用にする。また蜜源植物である。樹皮のタンニン濃度が高く利用され、バティック用の染料にもなる。マンギウムアカシアとカマバアカシアとの交雑種であるアカシアハイブリッド(写真 g)は材が通直で生育も良いため造林品種としてマレーシア・サバ州やベトナムなどで植栽が行われている。

【主な参考文献】石塚和裕 (1997) カマバアカシア. 熱帯の造林樹種第 3 巻, 国際緑化推進センター. 岩崎誠ら (2012) 早生樹 一産業植林とその利用, 海青舎. 川又ら (1988) 原産地の違うアカシア類早生樹の実生の温度適応性. 熱帯林業 13 号, 26-31. 黒田宏之 (2012) 熱帯アジアに分布するアカシア:分類、生育特性、病害. 生存圏研究 7, 51-56.

(国立研究開発法人 国際農林水産業研究センター 田中憲蔵)

写真 a 花の咲いた成木 撮影地：マレーシア、撮影年月：2007 年 6 月、撮影者：田中憲蔵

写真 b 葉・花序・莢のさく葉標本 採集地：マレーシア、撮影者：田中憲蔵

写真 c 若い樹幹と萌芽枝 撮影地：マレーシア (植栽) 撮影年月：2020 年 1 月 撮影者：田中憲蔵

写真 d 花序の枝のさく葉標本 採集地：マレーシア、撮影者：田中憲蔵

写真 e やや若い果実 (莢) 撮影地：ミャンマー、撮影年月：、1997 年 4 月、撮影者：斉藤昌宏

写真 f 果実 (莢) の枝のさく葉標本 採集地：マレーシア、撮影者：田中憲蔵

写真 g アカシアハイブリッドの苗木 撮影地：ベトナム、撮影年月：2010 年 12 月、撮影者：JIFPRO